

目的

豊かな自然、観光資源に恵まれ、国内有数の果樹産地である地域特性や、都心部からも比較的近いという地の利を活かし、農業分野

におけるリーディングシティとして先進的なIoT※①やBio技術等の成長分野に積極的に取り組む姿勢を内外に示すことで、多様な担い手が参画する仕掛けを創出し、「持続可能な社会づくり」※②や、それを担う「稼げる農業」の実現に向けた基盤を形成する。

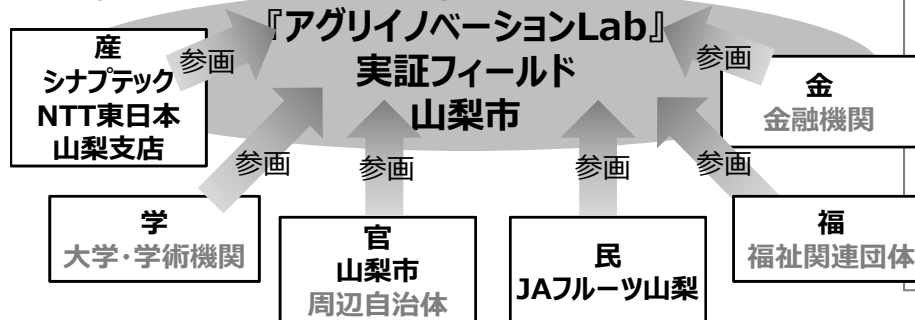
※①Internet of Things：様々なモノやコトがインターネットと繋がること

※②国連にて採択した“持続可能な開発目標”（SDGs）と照らし合わせて検討

概要

- 山梨市域をアグリノベーション※③に資する「Lab」（試験圃場）と位置づけ、実証実験及びビジネス検証フィールドとして提供する。
- マルチステークホルダーによるコンソーシアム※④を形成し、目的達成に必要な資源や情報を集約し、各プロジェクトを立上げる。
- 実証実験により取得された成果やデータを、山梨市のブランディングや農業の6次化含め、他の産業及び担い手向けの教育の材料として活用する等、様々な波及効果を狙う。
- 結果を集積し、持続可能な農業や地域の形成、および山梨市発の新たな価値やビジネス等の創出へと導き、目的達成を目指す。

※③農業分野における技術革新 ※④多様な担い手による協働体



※団体、企業等の固有な名は、発表時点の参画メンバー。

フェーズ1（本日～当面）

- 山梨市、JAフルーツ山梨、シナプテック、NTT東日本山梨支店の4者にてプロジェクト発足
- 参画プレイヤーがリソース・ノウハウを持ち寄り、地域と協力し、第一弾のプロジェクトとして、手軽な農業IoTのトライアル、スタディ並びにBio分野における最新の成長促進剤等の導入に向けたヒアリング等を行う（市内10件程度の農家、観光農園等とトライアル）
- トライアルを通じ、農業、地域発展におけるIoT及びBio技術の可能性や課題を身近に知ってもらい、取り組みのドライブをかける

フェーズ2（H29年度上期～）

- 農業IoTのトライアルを通じて得られた課題や必要な役割分担を踏まえ、山梨市行政との連携を強化し、規模の拡大やビジネス化を検討（「分野・パートナー」「エリア」「サポート」「技術」の拡大等）
- データを、地域ブランディングや6次産業化に活用する成功事例を創出。
- Bio分野において実地試験。研究機関等との連携を強化する。

目指す姿

- 現在の就農者や、将来の就農者（Uターン、Iターン）に優しい地域のショーケースを目指す。
- 関連プレイヤーが集まるラボとすることで、持続的にプロジェクトが発展することを旨とするともに、次代の担い手たちとの知の共有及び深化を行う（運営団体の設立、教育機関等との連携・協働）
- ブランディング向上による地域競争力の強化、6次産業育成
- 新規ビジネスの創出（Mt.Fujiイノベーションエンジン※⑤との協働）

※⑤起業創業支援団体 <http://www.sterra.jp/about.html>



定住人口/交流人口の増加・農業収入の拡大等 3